

お知らせ

idea

ニュースレター「アイデア」

2023.11

NPO・地域・企業・行政の情報発信により、「アイデア」と「であい」の機会を創ります。

- 1 | 二言三言 | 岩瀬社会福祉士事務所 代表 岩瀬 城光さん(前編)
- 3 | 団体紹介 | NPO法人アートで明るく生きるかわさき
- 5 | 地域紹介 | 第33区自治会(藤沢)
- 7 | 企業紹介 | 株式会社 スキルギャランティ(一関)
- 8 | 博識社のフクロウ博士 | 地域運営の落とし穴④ スマート農業
- 9 | センターの自由研究 | 地名の謎ファイルNo.9「一関村」

今月の表紙

隙間なく細長い建物が立ち並ぶ商店街。一関市大町の大町商店街は、江戸期には「大町」という地名であり、武士が行き交い、町人が住まう城下町の一部でした。間口は平均6間、奥行きは27~28間という屋敷割は、仙台北下にならったものなのだとか。ところでこの「大町」は、何村の領域だったか、ご存知でしょうか？(自由研究)

発行 いちのせき市民活動センター 千021-0881 一関市大町4-29 なのはなプラザ4F Tel 0191-26-6400 Fax 0191-26-6415 ホームページ: https://www.center-i.org/ メール: center-i@tempo.onn.ne.jp
せんまやサテライト 千029-0803 一関市千厩町千厩宇町149 Tel 0191-48-3735 Fax 0191-48-3736

情報

薪の注文・予約承ります

藤沢町を拠点に活動する「NPO法人 ティラファーム」では、「Ark館が森」内で榎(なら)等の広葉樹を使用した薪の製造・販売を行っています。薪のサイズは40cmで、今季の配達・販売については11月下旬~を予定しています(注文・予約は通年可)。詳しくは下記まで。

価格: 軽トラック1台分19,800円(税込)
販売方法:

- ①配送
※距離によって配送料は変動あり。
(例) 片道25kmで2,000円
- ②軽トラック持参での引き取り
※「Ark館が森」内で販売。

注文・予約期間: 通年
受付時間: 月~金 9時~17時
問合せ: 080-1501-0860 (担当: 鈴木)

イベント

一関市民オーケストラ演奏会「世界を巡る音楽の旅」

一関市民オーケストラでは、「第74回一関文化祭」の開催に合わせ、演奏会「世界を巡る音楽の旅~オーケストラと共にpart2~」を開催します。国内外の名曲約10曲(「軽騎兵序曲(スッペ)」「四季より春」(ヴィヴァルディ)「威風堂々(エルガー)」「となりのトトロ(久石譲)」などを、渡部勝彦の指揮で演奏します。詳しくは下記まで。※未就学児も入場可。

日時: 2023年11月26日(日)
〈開場〉13時30分 〈開演〉14時
会場: 一関文化センター大ホール
料金: 500円/人(小学生以下無料)
※プレイガイド 一関文化センター
主催: 一関文化祭実行委員会
問合せ: 090-9420-7170
(一関市民オーケストラ事務局・佐々木)

イベント

室根総合開発カップ第2回ソフトバレーボール大会

室根バレーボール協会では、室根総合開発株式会社との共催で、「室根総合開発カップ第2回ソフトバレーボール大会」を下記日程で開催します。「男子の部」「女子の部」「ミックスの部」に加え、今年は「ど素人の部(バレー部に所属経験のない方)」を新設。1チーム4人以上の登録(年齢居住地不問)で、11月15日(水)までの申込です。詳しくは下記まで。※当日は会場内で軽食やお菓子等の出店あり。

日時: 2023年11月26日(日)
〈受付〉8時30分~ 〈開会式〉9時
会場: 室根体育館
参加料: 2,000円/1チーム
申込方法: チーム名、代表者連絡先、チーム員氏名、年齢を取りまとめた上で事務局まで(様式は任意)
問合せ: 090-5231-0611(事務局・日下)

イベント

中津谷川イルミネーション

室根町津谷川地区の中津谷川地内では、今年も下記日程で「中津谷川イルミネーション同好会」によるイルミネーション点灯行事を実施します。

平成22年に地元有志2人で始めたイルミネーションですが、年々参加世帯が増加。旧津谷川小学校を起点に約600mの区間で、趣向を凝らしたイルミネーションをお楽しみいただけます。

点灯期間: 2023年11月23日(木)~
2024年1月7日(日)
点灯時間: 16時30分~21時頃
場所: 室根町津谷川字本宿周辺
※旧津谷川小学校を目指す
問合せ: 0191-65-2525
(事務局・佐藤好彦)

情報

馬の堆肥さしあげます

馬の堆肥を家庭菜園で使ってみませんか。おがくず堆肥なので、匂いも少なく、扱いも容易です。

牧場まで取りに来てくださる方には無料でさしあげています。約20km圏内であれば軽トラック1台3,000円で運搬の対応も可能です(20km以上の遠方の場合は要相談)。

完熟堆肥でありませんので、必要に応じて熟成させてください。

場所: 佐々木牧場
(一関市中里字大平山23-76)
※「山桜桃の湯」さん近く
問合せ: 0191-48-4461/
080-1841-1800(佐々木)

講座

自治会長サミット Vol.16 (自治会長・事務局サミット)

自治会や民区、集落公民館など、地縁活動を担う組織の三役レベルのみなさんに向けた情報交換の場「自治会長サミット」。

今回は、「自治会長に限らず、事務局同士でも情報交換ができる場を」との声から、集落内の自治会を含め付随する団体の運営等に携わっている方を対象に、悩みや課題、工夫していることなどを情報交換する機会とします。詳しくは下記まで。

日時: 2023年12月7日(木)
17時~18時30分
会場: 一関市川崎市民センター 研修室
定員: 40名
参加料: 無料
申込締切: 11月30日(木)※完全申込制
問合せ&申込: 0191-48-3735
(いちのせき市民活動センター 千厩サテライト)

まちの写真展

スタッフがまちの1コマを切り取ります。

作品名 「天狗が見守る地域の防災」



ヤツデで水を撒く大きな天狗。大東地域シャッターイベント事業平成28年いちのせき元気な地域づくり事業で、天狗田地区(大東町興田)の児童生徒が地名由来の原画を作り、地域住民とともにペイントしたものが、大きくカラフルな天狗が地域の防災を見守ります。



旧町村別の人口動態等を共有します。

2023年10月1日付
(2023年9月30日現在
住民基本台帳より)
※外国人登録者含む

一関市全体 前月比

人口	107930	-189
世帯数	46329	-56
出生数	37	-6

	人口	前月比	世帯数	前月比
一関	53971	-86	24518	-23
花泉	11921	-17	4700	-5
川崎	3211	-11	1274	-3
千厩	9778	-20	4098	-12
大東	11823	-17	4905	-4
東山	5835	-10	2270	-4
室根	4350	-12	1794	0
藤沢	7041	-16	2770	-5

175 / 107,930
岩 渕 城 光

市内福祉施設に勤務する傍ら、令和2年に「岩渕社会福祉士事務所」を開業し、成年後見活動等を行う（岩手県社会福祉士会が運営する成年後見人等の登録機関「ばあとなあ岩手」に在籍）。令和5年で福祉施設を退職、成年後見人活動を中心に、「あかり食堂運営委員会」代表や「大原地区福祉活動推進協議会」事務局も担う。昭和58年、大東町大原生まれ（在住）。



第111回 岩渕社会福祉士事務所 代表 岩渕城光 × いちのせき市民活動センター センター長 小野寺浩樹

「成年後見制度」で得る「安心」 ～本人の「権利」を守るために【前編】～

平成12年、民法の抜本的改正により施行された現在の「成年後見制度」。明治31年制定の「民法」においても「禁治産制度」として類似する制度があったものの、①自己決定の尊重、②残存能力（現有能力）の活用、③ノーマライゼーションという3つの理念を踏まえて新制度となりました。判断能力の十分な方々を保護し、支援する同制度について、我々が知っておくべきこととは？（2回シリーズの前編）。

小野寺 認知症、知的障害、精神障害などの理由で判断能力の不十分な人を保護し、支援する制度ですが、具体的には？

岩渕 要は法定代理人です。本人の利益を考えながら、本人を代理して契約などの法律行為をしたり、逆に本人がした不利益な法律行為を後から取り消すことができます。この制度には「法定後見」と「任意後見」とがあり、「法定後見」には、その判断能力の程度に応じて「補助」「保佐」「後見」と3つの類型があります。

小野寺 後見だけじゃないんですね。どういう違いが？

岩渕 補助・保佐は判断力がある程度残っている人の場合で、基本的に本人の意思が尊重され、代理権は部分的に与えられます。後見は判断能力が欠けている状態が通常である人の場合で、包括的に代理権が与えられます。最も利用されるのが後見です。

小野寺 例えばお金の管理でいくと、後見だと後見人が全て代理して、補助・保佐の場合は？

岩渕 お金の管理ができないのであれば、財産管理についての代理権を与えてもらうことで対応できますが、本人ができるのであれば与えられません。ただ、保佐には民法に定められた行為について「同意権（取消権）」が認められているため、保佐人が同意を与えていない法律行為は取り消すことができます。

小野寺 仮に悪徳業者から高額商品等を購入してしまっても、取り消しできるということですね。認知症の家族がいる場合などには、安心材料の一つかと。

岩渕 ただ実際には、そうした段階での制度利用よりも、相続などの関係で「後見人を立ててください」と言われ、必要に迫られて後見人の申し立てをするケースの方が多いです。制度の認知は進んでいない現状です。

が多そうであれば社会福祉士が選任されることが多いです。

小野寺 岩渕さんのような社会福祉士の後見人の場合、ソーシャルワーカーさんのような位置づけを期待されるのですか？

岩渕 近い部分はありますが、本来は、後見人はあくまでも「代理人」であり、本人に代わってサインをしたり、お金の出し入れをする役割です。なので、ソーシャルワークの部分は、福祉・介護の立場で関わっている人をメインにし、そこから提案等に対して、本人の代わりに判断をするイメージです。

小野寺 ケアマネージャーとしての経験がある岩渕さんならではの強みですかね。

岩渕 成年後見人は需要が増えています。成り手が少ないのが現状。私自身も初めて後見人になったのが3年前なので、様々なケースでの経験や知識を蓄積し、一人でも多くの依頼に応えられるようになればなと思っています。

【後編に続く】

小野寺 言葉は聞いたことがあっても、具体的に必要となるケースのイメージが持てない人が多いんだと思います。

岩渕 相続や不動産の売買契約などがわかりやすいです。相続人に認知症の人などが入っていた場合、後見人は本人が不利益にならないよう、本人の意思を確認しながら他の相続人と協議し法定相続分を確保します。また、土地・建物の売却にあたっては、本人に判断力がなければ契約できません。

小野寺 そうすると認知症の高齢者に限らず、知的障害、精神障害がある若い世代にも関係してきますよね。親の遺産分割協議で本人の意思を確認できるか。

岩渕 私はまだ経験がないですが、全国的に見れば若い世代に後見人等がつくケースもあります。ただ、今の制度だと、一度申し立てをして後見人がついてしまうと、亡くなるまで後見制度の利用をやめることはできません。

小野寺 なるほど。申し立てをするタイミングは慎重に検討し

なければいけないですね。例えば子どものいない高齢の夫婦二人世帯で、ご主人が他界して、奥さん一人取り残されたとして、どのタイミングで申し立てをするべきでしょうか？

岩渕 認知機能が衰えてきて、家事、通院、家や敷地の管理、公共料金や税金の支払いなど、そういう部分が崩れていったとき、ケアマネージャーなど福祉の専門職がついて、介護サービスが介入してくるようになれば、必要な支援が明確になってきます。その中で支払関係などに不具合が生じていると判断されれば、ケアマネージャーなどと相談して後見人の申し立てを行い、支払いを自動引き落とししたり、その人の年金や収入の範囲内で家計や介護サービス費用がやりくりできるように後見人が管理します。自宅での生活が難しくなり、施設入所が適当となった際には、その契約も後見人が行い、その後の家や敷地など、固定資産の管理も後見人が代理で行います。

小野寺 福祉・介護サービスと結びつけば、後見人などの申し立てにもつながっていくんです

※2 未成年に後見人がつくケースもあり、その場合は「未成年後見制度」の利用となる。
※3 敷地の草刈りなどは、後見人が直接行うのではなく、本人の収入の範囲内で、シルバー人材センター等に依頼して必要に応じて行う。

※1 民法13条1項

団体紹介

NPO法人 アートで明るく生きるかわさき

平成17年2月、地域の多種多様な人々が楽しく健やかに触れあう事を目的に地域内有志で設立。「工房てんとう虫事業」「障がい者アート事業」「介護予防アート事業」を3本柱に、地域住民交流・障がいの自立と社会参加の促進を目指している。

住所 一関市川崎町薄衣字諏訪前97(地域活動支援センター工房てんとう虫)
TEL 0191-43-4733
写真:「てんとう虫教室」にて、工房メンバーと地域住民、スタッフ(令和5年9月)



地域に笑顔の花を咲かせよう

旧川崎村では、平成10年頃から「障がいのある方の社会参加を目的に調理と創作活動を通じた地域住民との交流事業障がい者デイケア事業」を行ってまいりました。その事業名称が「てんとう虫教室」。

在宅で生活していた障がいのある方が、同教室に通うことで、生き生きとした笑顔になり、その様子を目の当たりにした当事者家族から「好きな時に好きに集い、アート活動ができる作業所を立ち上げてはどうか」という機運が。平成14年8月、「川崎村精神障がい者家族会かわさき虹の会」が主体となり、作業所「工房てんとう虫」を発足しました。

しかしながら、当事者家族は高齢者が多く、工房の継続的な運営が課題に。事業を継続していくためには、家族会以外の母体が必要と考え、てんとう虫教室に参加していた地域住民やボランティアなどが全面的に協力する形で、平成

「健康で笑いのある」交流の場づくり

NPO法人 アートで明るく生きるかわさき

17年2月「特定非営利活動法人(NPO法人)アートで明るく生きるかわさき」が設立されました。以後、「工房てんとう虫」は、事業運営も含め同法人が引き継ぎ、当事者やその家族、地域住民の交流を促進しています。

好きな時に好きなことを 個性が光る表現活動

授産活動・創作活動の拠点である工房てんとう虫には、精神障がいのある方を中心に、12名(令和5年9月現在)が登録(利用者)。社会参加を目指し、平日は軽作業・創作活動に加え、月・水・金曜日に一関市役所川崎支所の清掃作業も行っています。

工房てんとう虫所長兼指導員の木村静恵さんは「利用者は手芸上手なボランティアさんから教えてもらいながら楽しそうに小物づくりに挑戦をしています。ボランティアさんの協力のおかげで利用者は成長しているのです。さらに創作した自主製品は、道の駅や地

域のイベントにて交流販売することで利用者の励みにもなるんですよ」と地域とのつながりを大切にしています。創作した絵画作品は、年に一度、「てんとう虫・展」と題し、「ギャラリー・彩画堂」で展示会を開催。木村さんは「彩画堂さんでの展示会では、作品を額装し、ライトアップします。利用者も特別感ある自分の作品を鑑賞することで次の制作への意欲が湧くようです」と語り、「11月の川崎町の文化祭でも作品展示をしているので、ぜひご覧になってください」と続けます。

市内には、同工房のように「好きなタイミングで好きなことをしたいよ」という居場所が少ないため、「来れる時に来たいタイミングでOK。作業をしたくない日はお話だけでもOK」と、一人ひとりの状況に合わせて活動できることを大切にしています。

アート活動を基軸とした社会参画

工房の運営に加え、同法人は、地域住民を対象とした「アートを通して交流」も受託しています。その一つ「てんとう虫教室」は、障がいのある人と地域住民の交流の場として、毎月2回、一関市川崎市民センター等で開催して

います。

午前はボランティアを中心に調理実習、午後は講師を迎えて創作活動(月の前半は絵画、後半は遊書(習字))を行うほか、保健師や看護師等も常駐し、健康相談や悩み事相談なども実施します。

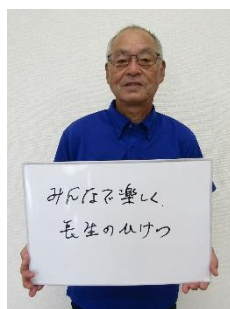
同じく受託事業である「介護予防一般高齢アート交流事業」は、高齢者の引きこもり防止のほか、介護をしている家族のリフレッシュなど、介護予防を目的にサロン等の地域の集まりに向き、干支のはり絵作りや手軽な塗り絵・絵手紙、少し凝った折り紙等、同法人スタッフや利用者が出前交流を行うものです。令和5年は10地区から交流要望があり、全26回の開催です。

「利用者やボランティア、地域住民も、高齢化が進んでいるのが現状。ただ、近年では、工房てんとう虫の利用者は若者が増えてるのが現状です。環境の変化に対応できず疲れてしまうこともあるのでしょうか。健康で笑いのある交流の場づくりはこれからますます必要であり大切にしていかなければならない」と、同法人2代目会長の千葉博さんは現状を語ります。

木村さんも「みんな(他者)との交流で経験値を増やし、自信が付いたら次のステップへとという形で、その人に合った居場所を提供し、『ちょっと一

Q.あなたにとって「明るく生きる」とは？

会長



A. みんなで楽しく長生きの秘訣

ちば ひろし
千葉 博さん

法人を立ち上げる際に有志で関わっていた参加者の一人。平成25年6月に2代目会長に就任。令和4年度で同法人が運営する「工房てんとう虫」は開所20年!

工房てんとう虫 所長兼指導員



A. 笑って毎日暮らす

きむら しずえ
木村 静恵さん

平成12年から障がいの者デイケア事業でアート活動に関わったことを機に職員へ。何気ない会話や作業を大切にしながら、次へのステップになるよう、利用者を見守っています。

休みしたい』そんな心のよりどころでありたい」と続けます。法人名の「明るく生きる」は、利用者の言葉。「誰もが明るく生きられる環境を守り続けていきたい」という強い想いを、同法人は繋いでいきます。

- Photo

gallery -



展示会では作品の展示だけでなく、オリジナル商品も販売。初日に訪れた利用者(作者)さんに商品を持ってもらいパチリ。

てんとう虫・展15



年末は干支の「はり絵」が定番。地域への出前交流(介護予防一般高齢者アート交流)でも取り入れます(写真は令和4年)。

介護予防のために



調理実習後はお習字。講師のお手本を見ながら、丁寧に仕上げられています。「発見・刺激・感動」を心と体に与えます。

てんとう虫教室②



令和5年9月の「てんとう虫教室・調理実習」には、12人が参加し、「五目ちらし寿司」と「かき卵汁」を作りました。

てんとう虫教室①

農業環境の良さを生かして

豊富な地域資源

巨石が鎮座する「立石神社」や100年近い歴史を持つ「増沢神楽」等の歴史的要素やカタクリの群生地など、地域資源に富み、JAいわて平泉の藤沢宮農経済センターや南部園芸センター、各種事業所も点在することから、地区外からの人の往来も多い第33区自治会。市道増沢新沼線に沿って広がり、千厩町や川崎町にも隣接しています。

そんな同集落を「安心して住める良い所」と話すのは、令和4年に同集落に移住し、認定農業者としてピーマンの栽培に取り組む小野寺隆好さんです。人口減少が進み、空き家も増える中、同集落にはこの5〜6年間で4世帯が移住。「比較的千厩町の商業圏や国道284号線にもアクセスしやすいことが要因の一つかもしれない」と同自治会総務部長の村上秀俊さんからは分析します。

第33区自治会(新沼)

行政区は「33区」。旧藤沢町の北側に位置し、49世帯194人が暮らす(集合住宅等、自治会未加入世帯も含めると約60世帯)。6班体制、8部会(総務、文教、産業、税務、生活環境、福祉保健、女性、自主防災)で構成される。



左の写真：花壇定植作業後の集合写真(令和5年6月)

第33区自治会

藤沢

備わっていて、出荷場(JA藤沢宮農経済センター)も近い。農業に挑戦したい人にとっては非常に良い環境。「良い所に農場を構えているな」とよく言われます」と、同集落に移住した背景を語り、「農業環境の良さに加え、親身に接してくれる地元の方々も魅力の一つです」と続けます。

ミニ計画に則り 身近な活動を着実に

旧藤沢町では43ある自治会毎に「ミニ計画(非地域づくり計画)」を作成しており、現在も5か年毎の見直しを続けています。

同自治会はミニ計画の中で「みんなで支え合い、安心安全に暮らせる地域づくり」「地域の資源を活かした地域づくり」という2つのスローガンを掲げ、毎年の事業もこのスローガン達成を意識して計画されています。

例えば「支え合い」においては福祉保健部が区長や民生委員、福祉団体と連携し、高齢者や一人暮

農村集落として、将来を見据えた仕組みづくり

「ミニ計画」の中でも「遊休農地の増加」「少子高齢化に伴う農地維持の困難性」を課題にあげ続けてきた同自治会。令和2年、集落営農の実現を目指し、「増沢地区土地盤整備事業推進委員会」が発足しました(33区住民を中心に、32区の住民も一部対象)。

同自治会の産業部でも、農家組合と連携し、同委員会の活動支援を行っています。村上さんは「農業を志す将来の世代が、この土地で農業ができるよう、我々の世代でその土台を作ろうと思っています」と意気込みます。

佐藤さんは「住民相互の助け合いは昔から続いています。最近新しい仲間が増えた。長年住んでいる私たちには見えていない良い所も見つけてくれます。将来的にはみんなが元気に働けるような地域にしたいし、みんなが安心して年を取れる地域にしたい」と語ります。

かつては隣接する32区と「増沢村」に属していた33区。現在も多面的機能交付金による河川の清掃、水路の泥上げなどの作業は増沢地区として行い、「増沢交流館」も合同で管理していま

Q.集落の自慢は何ですか？

自治会長



A. 平和

さとう すえき
佐藤 末喜さん

1期2年目。千厩町小梨出身。自治会役員を約10年務めつつ、「新沼地区自治会協議会」会長なども歴任するなど幅広く地域活動に貢献してきました。

新たな住民



A. ピーマン日本一

おのでら たかよし
小野寺 隆好さん

平成28年に千葉県から帰郷(室根町)。令和4年に同集落に移住し、室根・藤沢の2地域でピーマン栽培、ピニールハウス関連事業を展開しています。

す。「増沢神楽」は増沢地区住民有志による「増沢神楽保存会」が継承するなど、単一自治会での活動と、広域(増沢地区、新沼地域、藤沢全域)での活動のバランスを取りながら、「個々の暮らし」の側面的支援を、自治会が担っています。

- Photo



春を待ちわびながら
数年前に地元住民が発見したカタクリ群生地。多面的機能支払交付金制度等を活用し、住民有志が整備を続けています。



拠点は増沢交流館
旧増沢児童館(画像手前)を交流館として活用。32区と共同管理ですが、32区は隣(画像奥)の増沢地区自治会館を主に使用。

gallery -



主要道路の環境整備
同町内でも交通量が多い一級市道「増沢新沼線」や、その周辺道路の環境整備を実施。支障木の伐採なども行います。



楽しみはおしゃべり会
清掃後の談笑タイムを励みに、女性部が「増沢交流館」の清掃を担当。第32区との隔月交代で、館内はいつもピカピカ。

一関 株式会社スキルギャランティ

婦人スラックス・スカートの受託加工及び製品プレス仕上げ、納品業務に付帯する各種事業を行う。昭和56年4月、一関市宮下町で6坪程度の作業場から夫婦二人三脚でスタート。翌年、従業員6名を雇用すると、同市山目字十二神に移転(同時に有限会社化)。昭和61年9月には、業務拡大のため一関市赤萩に新築移転。従業員の働きやすさを考慮した新工場を設立すると、翌年組織変更(株式会社化)し、現社名へ。

令和8年で創業45周年を迎える中、「技術の継承」と「技術の信頼」にこだわり続け、その仕上がりは一流デザイナーが認める美しさです。

地方の町工場が支えるファッション業界

従業員の声に 女性目線の職場環境づくり

「ミシンの音が響く場所で、『流行』は生まれる」。そんなキャッチコピーのもと、大手メーカー製品の縫製を手がける「株式会社スキルギャランティ」。代表取締役の千葉繁さん(奥州市衣川在住)が一関市宮下町に、デザイナーズブランドの裁断・ソーイング全般を請け負う事業を立ち上げたのは昭和56年でした。「小さな社屋から始まった企業ですが、社名の『技術を保証する』の名にふさわしい企業となるよう、時代に合わせ成長してきました」と、創業25周年(平成18年)の記念写真集に目を細めます。

翌年、従業員の雇用や業務拡大で社屋を移転(同市山目字十二神)。さらに昭和61年には、現住所(同市赤萩)に工場を新築。当時の従業員も「私たちの会社」という強い思い入れがあり、数々の工夫がなされました。「当時の工場としては珍しく、床暖房を入れました。縫製業は女性が多い職場なので、足腰の『冷え』を考慮しての導入です。これは従業員の『声』でもありました。また、市内外でも非常に珍しがられたのは、企業内託児所の設置ですね」と、千

葉さん。将来の技術者を育てるべく、市内高卒者や若者を多く雇用していた同社では、昭和60年代から平成10年頃にかけて、結婚・出産を迎える従業員が多かったこともあり「安心して働き続けられる環境を」と、社屋2階に託児所(専属保育2名雇用)を併設したのです。

「ここを巣立った子どもたちは80人ほど。保育園や幼稚園の入園後も、各園バスが弊社前で子どもたちを降ろし、小学校に入学しても学童的な形で利用するなど、夕方には大勢の子どもたちで託児所が賑わいました。私も子どもたちのために季節ごとのイベントを企画したものです」と懐かしそうに振り返ります。

「What Can I Do?」 難しい注文にも応え続けて

将来を見据え、平成初頭からは、受注内容をデザイナーズブランドから婦人スラックスやスカートなどの、規格が明確な量産品に徐々に切り替

え、大手メーカーからの大量発注にも応える生産体制を築いてきた同社。平成13年からは外国人技能実習生(以下、実習生)も受入れ、託児所スペースは実習生の居住スペースに変わりました(託児所は需要減で閉所)。「技術が国を超えて継承されることもまた時代の変化」と千葉さん。平成18年に開催した創業25周年記念事業では、実習生が自ら製作した伝統衣装でファッションショーを開催するなど、「日本の父」として交流を深めてきました。

令和2年には独自のホームページを立ち上げ、パンフレットも一新。「コロナ過で工場見学ができない状況もあり、『スキルギャランティは何の仕事をしているの?』に応えなかった。若者が視覚から得られる情報で興味を持つてもらえれば」と、情報発信に力を入れています。

モットーは「What Can I Do?」。確かな技術と品質で、一関で縫製された商品が全国に届けられています。



- 1 社屋と工場外観。
- 2 他社工場以上に「中間アイロン」に時間をかけるのがこだわり。
- 3 記念写真集を眺める代表取締役の千葉繁さん。

DATA
〒021-0041
一関市赤萩字桜町77番地1
TEL 0191-25-3251
FAX 0191-25-2681
HP <http://www.skill-8185.jp/>

今月のテーマ
地域運営の落とし穴④
「スマート農業」

博識社の
フクロウ博士
第56話

農業とは……「十を聞いて一を知る」

今年の夏は、酷暑という表現が使われるくらい暑かったです。地球温暖化を通り過ぎて地球沸騰化というワードまで飛び出す事態に。その影響は、日常生活に支障をきたすだけでなく農作物も高温障害や雨不足による枯死や収量減少など多大な被害につながっています。季節は秋になり、例年に比べ気温は高いままですが、植物の反応は正しく、稲も収穫時期を迎えました。

当市では、幸い湯水にはならなかったため例年通りの品質、収量があるようですが、我が家の水田には、例年見かけることのない草が繁茂し、刈り取り作業でコンバインにつまって大変でした。田植え後に除草剤散布をして、例年なら抑えられていたはずなのに、それが効かないくらいの天候などの影響があったのか、何かしらの影響で例年生えなかった草が出たのか原因は分らずですが、改めて農業は、自然相手の難しいものだと感じさせられました。中期除草剤を散布するという対策もあったのですが、父親のやり方は、中期剤を導入することがなかったの、その発想が抜けていたという単純なミスであることは、お恥ずかしい話です(笑)。

そんな例年とは違った悪戦苦闘の稲刈りをしながら感じたのは、「スマート農業」のこと。最近では、スマート農業という言葉を見ることが少なくなったような気がしますが、これはすでに定着したからなのか、難易度が高いため、諦め始めたのかは定かではありません。

スマート農業とは、ロボットやAI(人工知能)、ICT(情報通信技術)、IoT(モノがインターネット経由で通信すること)、などを活用して、超省力、高品質生産をする農業のこと。生産者の減少や高齢化に対し、最新技術を使うことによって**体への負担軽減や作業効率の向上、かつ高品質の作物を得ていくという新しい時代の農業**です。農業に限らず技術革新が進み、まさに近未来的な絵が実現に向かっていきます。

そこでふと思ったのが、数年前、「ITが得意だからスマート農業をやりたい!」というIT技術者がいたこと。たしかにスマート農業にはIT技術者は必要ではあるけれども、IT技術だけ駆使できればスマート農業が成り立つかと言うと……成り立ちません。

新しい技術の導入は、生産過程の一部分にすぎず、稲作の場合は、耕起、田植え、管理、稲刈り、乾燥、精米という、「一連の農作業」を理解していないと技術も導入できないのです。

私も父を亡くしてから試行錯誤を繰り返していますが、肥料設計をどうするか、天候に合わせた管理をどうするか、それこそ先に述べたように初期除草剤だけでなく中期除草剤を導入することやそのタイミング、イモチ病防除やカメムシ防除など、専門的な知識が必要です。技術だけ使えばできるものではない、現場の苦勞と一連の行程を知らないといけないものではない……と思いつつ、コンバインのつまりと闘っていました(笑)。

我が家の場合、最新ではないですが、農業機械は一通りそろっているので、自分で作業をしますが、**機械を使いこなすのも「人」であり、生産工程を知らないと機械も使えないし、何も作ることはできない**のです。

結局、そのIT技術者は、スマート農業をやっている様子がないので、諦めたのかもしれませんが。「ITが得意だからスマート農業」という安易な考えではなく、モノゴトの本質を捉え、「生産者としてのIT技術者」として、しっかり関わる「覚悟」を持ってほしいものです。

今年の田植えの時、我が家の近くの田んぼでは、無人の田植え機が田植えをしているのを見かけました。農業法人のような大規模経営の組織では実証実験が繰り返され、たしかにスマート農業は、身近になりつつあります。

「人」と「技術」がバランスよく調和し、一次産業を支えていくことは、これからの時代、必要なことです。



つまりを取り除こうとコンバインを覗き込む筆者と、その様子を覗き込むスタッフSの娘たち(稲刈り体験に来ていた)

「二関村」が位置していたエリアを検証してみた

『磐井郡西岩井絵図(写)』に描かれた二関村のエリアを現代地図(今回はGoogleEarthを使用)におおよそ重ねてみたのが右の図です。「おおよそ」と言ったのは、絵図では一関村に入っていた「大町」を、今回は二関村に入れてみたからです。

『安永風土記』に記載された村境を見ると、大町までが二関村になっており、そうすると一関村が飛び地のような状態(右図の一関村①②)になります。右項でも記載したように、一関村・二関村とで「一関城下」を構成しており、大町は入会(いりあい)状態だったようです。

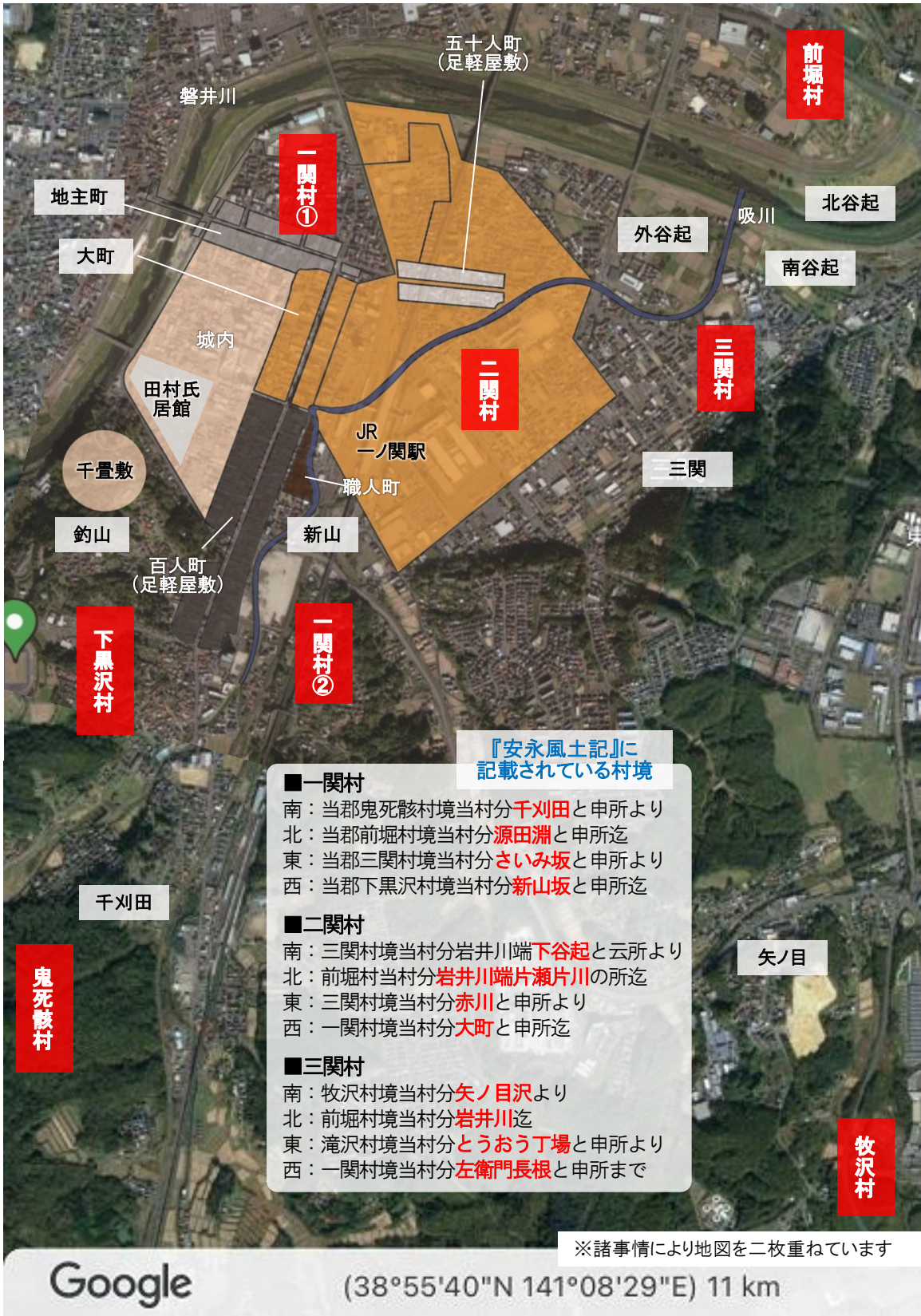
三関村との村境は「下谷地」「赤川」と記載されていますが、現在地図では不明。「外谷起」「北谷起」「南谷起」という地名が連なるエリアがあるため、「下谷地」はこのあたりを指すのではないかと推測します。絵図では街道を境に三関と面していたようなので、近い道で今回は境にしてみました。

なお、一関村・二関村のエリア内には「百人町」「五十人町」「職人町」など城下町由来の町があります。百人町・五十人町は足軽が居住するエリアであり、検地帳などでも別に項目立てされます。

また、一関村も二関村も、居住エリアはかなり凝縮されています。右地図で「一関村①」と示した場所は、宿場である地主町程度で、それ以外のスペースには居住していません(村境が「源田淵」とされていることから、湿地だった可能性も)。二関村も、次号でご紹介しますが、居住地はほぼ大町であり、それ以外のエリアは田畑です。

ちなみに『安永風土記』に記載されている各村の家数や人口は右の通りです。

※参考文献等は当センターHPにてご紹介します。



『安永風土記』に記載されている村境

■一関村
南：当郡鬼死骸村境当村分千刈田と申所より
北：当郡前堀村境当村分源田淵と申所迄
東：当郡三関村境当村分さいみ坂と申所より
西：当郡下黒沢村境当村分新山坂と申所迄

■二関村
南：三関村境当村分岩井川端下谷起と云所より
北：前堀村当村分岩井川端片瀬川川の所迄
東：三関村境当村分赤川と申所より
西：一関村境当村分大町と申所迄

■三関村
南：牧沢村境当村分矢ノ目沢より
北：前堀村境当村分岩井川迄
東：滝沢村境当村分とうおう丁場と申所より
西：一関村境当村分左衛門長根と申所まで

	家(人頭)	人口	産物
一関村	113(村居住23/町居住90)	645人	紅花、麻
二関村	91	520人	紅花、牛蒡、人参、麻
三関村	36	145	紅花、麻

大町の中がどうなっていたのか気になる！次号でご紹介します。

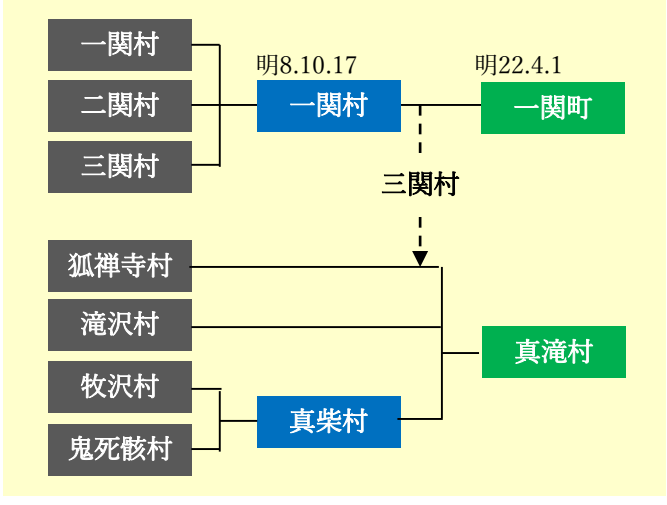
現存する絵図に、「一関村」「二関村」「三関村」が各村単独で描かれたものはありません。周辺の村や3村が一緒に描かれた絵図は存在するものの、絵図によって各村のエリアが異なっていることも。そこで、元禄12年(1699)に生江助内が描いた地図を明治21年に千葉美胤が謄写した『磐井郡西岩井絵図(写)』を基に、文献に記載された情報も加味しながら、編入直前の「二関村」エリアを検証してみました。※あくまでも推測です。

地域の「気になること」をセンタースタッフが独自に調査！

センターの自由研究

ミッション 81 地名の謎 ファイルNo.9 「二関村」

江戸期～明治8年まで存在した「二関(にのせき)村」をご存知でしょうか？明治8年に「三関村」とともに「一関村」に編入され、その歴史を閉じました。一般的に、藩政時代に存在した村名は、小字や大字として残ったり、地名としては残らずとも、通称として住民間で使用されたりしますが、現在「二関」と呼ばれる場所は存在していないようです。大字として残っている「三関」に対し、存在したことを知らない人が多い「二関」。その実態はいかに……！？ ※記載内容はあくまでも独自調査の結果です。



■「城下町」の「百姓」たち

「二関村」は明治8年まで存在した村ですが、その起源は分かっています。二関村が存在したことが確認できる史料もほとんど残されていません。二関村が位置したとされるのが水害常襲地帯の磐井川流域だったことや、家屋や町の構造上(後述)、火事も多発していたことが、史料が少ない原因と考えられます。

二関村は現在の一関市大町をメインに、北は一関修紅高校などを含む東花王町まで(厳密には川の半分まで)東はJR一ノ関駅や旧NEC跡地なども含み、現在の大字三関との境までと考えられます。西に位置するのが「一関村」です。

この一関村は釣山北麓に「一関城」を構えた「一関藩」の城下町です。現在の大字「城内」や「田村町」が一関城の「城内」で、その周縁に当時の「百人町(足軽屋敷)」「職人町」が築かれており、一関村は現在の「地主町」等を指します。「安永風土記」では二関村に属していた「大町」も、時期によっては一関村領となっていたり、一関村・二関村とで「一関城下」を構成していたような状態です。

そんな二関村は、商人の町でした。メインとなる大町は奥州街道が通り、その両沿いに隙間なく住居(店舗)が連なります。その間口は平均6間、奥行きは27〜28間と縦長であり、仙台北下の町屋敷の基準(通称「二軒屋敷」)と類似しており、仙台北下にならった屋敷割が行われたと考えられているようです。寛文13年(1673)に63軒だった町屋敷は、幕末期には113軒と倍近く増加し、明治初期には間口3間ほどの「半軒屋敷」が出現しています。

城下町の一部であり、一般的には「町人」の身分にありそうな二関村ですが、身分は「百姓」に近く、田畑を有し、年貢負担の義務を負っていたと見られます。田畑は現在の一関駅東口周辺に展開されていたようです。

左項では具体的に二関村のエリアを確認してみます。

「二関」の語源は「堰」？

「一関」「二関」「三関」という地名の由来には、2つの説があります。

① 関塞説(かんさい)説
前九年合戦(1051～1062)の時に設置された「関(関塞)」に由来する

② 用水堰説
用水堰開削に由来するとされ、当初は「一堰」「二堰」「三堰」だったものが「関」に転化した

史料上では、15世紀半ばから16世紀前半の正法寺(奥州市水沢区)に関する記録に「西岩井一堰願成寺」の表記が、16世紀後半からの当地域の城館主の系譜類は「関」になっているようなので、16世紀の中頃から転化していった可能性があります。

なお、「二関」という地名が確認できる史料が少ない中で、右の検地帳(一関市博物館蔵)には二関村の地名や田畑の面積等が確認できます。



「磐井郡西磐井之内二関村 御検地帳(寛文13年)」